

地球規模課題総括課での勤務を通じて

平成29年2月
外交実務研修員 吉崎 裕介
(鹿児島県より派遣)

1 はじめに

2016年4月からの外務省国際協力局地球規模課題総括課での勤務も、もうすぐ2年が経とうとしています。これまで私が得た経験の中から、その一部を御紹介させていただきます。

2 国際協力局地球規模課題総括課について

この部署名を聞いて何をやっているのか想像がつく方はあまりいないのではないのでしょうか。地球規模の課題と聞くと環境問題を想像する方が多いかもしれませんが、教育、ジェンダー、防災……開発途上国だけでなく、先進国も様々な課題を抱えており、全世界で取り組んでいくため、2030年までの目標として、SDGs（持続可能な開発目標）が国連において定められました。当課では、このような課題に取り組んでいます。

SDGsの達成には、国内の地方自治体や民間企業、市民社会の取組も重要であり、SDGs普及・推進のために外務省と地方などが協力するその最前線にいられたことは地方自治体職員としても大変有意義な経験でした。

3 国際機関担当として

多国間外交の場である国連では、様々な機関がその関係機関として活動しており、また、国連とは別の枠組みで活動している国際機関も多くあります。外務省ではこれら様々な国際機関と協力して、世界の様々な課題の解決に取り組んでいます。

私が担当した国際機関のうち、国連アジア太平洋経済社会委員会（ESCAP）について紹介します。

国連経済社会理事会は名前のとおり経済社会問題全般を担っていますが、ESCAPはそのうち、日本や中国、ロシアなどを含むアジア太平洋地域の62か国が参加する最大の地域委員会です。本部はタイ・バンコクにありますので、在タイ日本国大使館と連携しながら、地域における貿易・投資、運輸、防災、情報通信、環境など多岐にわたる分野について、数多く開催される会合において、日本の取組を発信し、日本の立場を伝えるための努力をしています。

会合の度に違う分野に関する会議文書を読み、会合に向けての対処方針の作成や、出席者の調整を行うのですが、そのためには各分野を所掌する関係省庁や、外務省内の他部署との調整が多くなり、時には難しい判断を伴うこともあります。

また、年1回タイ・バンコクで開催される総会には私も出張し、多国間外交の現場を知ることができました。2016年には濱地外務大臣政務官（当時）に

もご出張いただき、首席代表として演説を行っていただいたほか、福井照衆議院議員のご参加も得て「世界津波の日」普及啓発イベントを開催し、それらの演説文作成や出張行程に関する調整など、大変貴重な経験をさせていただきました。さらに、出張先では濱地外務大臣政務官（当時）と他国の首脳・閣僚との会談も実施し、二国間外交の場に関わることもできました。



4 分野別担当として

地球規模課題総括課では、ジェンダーや教育、防災など分野別課題の担当もあり、私は主に障害者を担当しました。日本は様々な分野において国際協力を実施しており、また国連などでは特定の分野をテーマとした会合が度々開催されているため、日本の取組をアピールするとともに、日本の考えを反映させていかなければなりません。

例えば前述の ESCAP では、「アジア太平洋障害者の十年」という各国が障害者支援を推進するための目標を定めています。2017年に中国・北京で開催された会合には私も出席し、日本の演説文等の作成に加え私自身もサイドイベント冒頭に英語で挨拶させていただくなどの機会がありました。国際会合の場で日本の障害者団体の方や企業の方なども精力的に活躍されている姿が印象的でした。

5 その他の経験

外務省では、「ODA 出前講座」という外務省職員が求めに応じて出向き、日本の国際協力について説明する事業を実施しています。国際協力局の一員として、私も高校生や NPO 法人の方を相手に講義する機会をいただきました。ODA について自らもまた深く学べる機会となりました。



6 おわりに

外務省本省勤務の2年は今振り返ってみるとあっという間でした。英語ができて当たり前という環境の中、語学面では特に実力不足を痛感させられてばかりでしたが、以前に比べれば外務省、そして世界がずっと身近に感じられるようになりました。そして地方の取組もまた世界的な取組とつなげることができ、日本の外交にも生かすことができると知ることができました。来年度からは在外公館での勤務となる予定ですが、海外での仕事を通じて更に見識を広めていきたいと考えています。